

英語部 2020 年「今年を振り返って」



英語部 111 代 委員長 松山 楓

今年はコロナの要因によって、大きく年間活動計画を変更する必要がありました。主に計画を中断したことが3つ、コロナにより新たに実施したことが4つあります。また、各セクションの活動はここでは省き、全体活動のみ述べていきます。

中断したことは新入生歓迎（以後、新歓という）制度改革、新歓合宿、秋季全体活動イベントの3つ。

新歓制度改革は、部員数を増大させることを目的として策定されていきました。部員をチームに分け、新入部員獲得を競わせることで部員数の増加を目的としていきましたが、オフラインでの新歓は中止となったため断念しました。

新歓合宿は、夏のサマーレーニングキャンプ（STC）に参加できない人が、部を辞めてしまうという課題を解決するために、新入部員が英語部に所属意識を持ってもらえるように企画しましたが、課外活動禁止のため中止せざるを得なかった。

秋季全体活動はセクションを超えた交流が少ないという課題を解決するための活動であり、他セクの活動を体験することを想定して計画しました。

こういった活動からセクション間の隔たりを消していき、将来的にはセクションの撤廃やセクション選択時期の延期も踏まえた、あくまでも英語部としてのつながりを強化することを目的としていたが、秋も課外活動禁止であることもあり中止となりました。

コロナにより新たに実施したことは、オンライン新歓、セクション選択の延期とホームミーティング（HM）の役割変化、部費の減額、オンライン全活イベントの4つ。

オンラインでの新歓企画は、オフラインでの新歓が禁止となったため、ZOOMやインスタグラム、twitter等を活用してオンライン上で本格的に初めて実施し

ました。対面だと聞きにくいことも聞けたりするため、オフライン新歓が解禁となっても、継続する価値のある企画でした。

今年度は、秋の新歓を実施する計画だったため、9月に入ってくる新入部員のこととも考慮して、セクション選択の時期を10月末としました。そのため、春学期の活動をセクションではなく、HMでの活動としました。HMはセクションでの区別がないため、セクション間での隔たりを無くす狙いもあったが、オンライン活動しかできないということもあり、効果はあまり感じられませんでした。セクションに縛られない活動を、春を通して行ったことは1つの進歩だと感じました。

部費の減額は、オンラインでの新歓だけでは部員を獲得できないという課題を想定し、部費の減額を対策として実施しました。(これは、来年度通常の一部費を収入として得ることができるということ想定して、まずは部員の確保が重要だと考えた結果でもあります。)

今までの部費1万5000円を3000円に減額しましたが、入部者数を約120名(例年約170名)獲得できたことを考慮すると、効果はあったと考えます。

そして、春学期はオンライン上での全活イベントを実施しました。これは、HMでしか春は活動がないため、他のHMや1年生から3年生の交流を生むことを目的としたものです。(HMは1年と2年のみ所属)目的を果たすことに加え、セクションでの区別を行わなかったため、セクション間での隔たりも緩和できたイベントでした。

今年度は、コロナにより大きく従来の計画を変更する必要がありました。すぐに変化した状況に対応し、部に指針を示す瞬発力と柔軟性は執行部にとって重要ですが、その上で2つの課題があると感じました。

1つめは、毎年執行部は変わり、経験が浅いため、執行部自身が具体的にどのように動くべきかを理解できていないことです。これについては、既に経験した私を含む執行部OBと現役執行部との連携を強化することが必要だと考えます。

2つめは、部員への伝達の困難性です。執行部が素早く指針を示したとしても、部員が多いため、なかなか部員全体にそれが伝達しないということが容易に生じます。

現在は3年執行部→2年執行部→部員全体という流れか、3年全明→セクションチーフ→各セクション部員全体という伝達構造をとっていますが、これではあまり全体に伝わらない。2年執行部→全体とセクションチーフ→各セクション部員全体のところで伝わらない問題がでているため、確実に伝えるための組織改革なども必要だと考えました。

最後にOB会について2点述べます。

まず、寄付金を今年も贈呈していただき、心より感謝申し上げます。
今年度は新入部員の部費を3000円に下げたことで、大幅に収入減となりました。
大学からの支援金もありますが、全サークル一律ということもあり、規模的にも大きい英語部からすればあまり状況に変化がなく、厳しい状況下において、寄付金は大きな助け舟となりました。

次にOB会への期待について述べます。

OB会とは今後も更に連携を深めていけたらと思います。

OB会の方々には、現役英語部員以上に英語部に関して考えてくださることが多々あり、貴重な意見を頂けることが多く、非常に参考になりました。

今後も全明執行部が部の運営を行う上での指針を、より適切に示していけるようにするためにも、OB会と全明執行部の双方向の連携を深められることに期待いたします。

以上。